

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン ニイガタケンリツダイガク 公立大学法人新潟県立大学									
フリガナ大学の名称	ニイガタケンリツダイガク ダイガクイン 新潟県立大学大学院 (The Graduate School of the University of Niigata Prefecture)									
大学本部の位置	新潟県新潟市東区海老ヶ瀬471番地									
大学の目的	新潟県立大学大学院は、広い視野に立って学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、学術文化の向上を図り、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	「グローバル化に対応し、国際社会の実情と動向、地域（東アジア）の国際関係と東アジアの中での各国（ロシア、中国、韓国）の実情と動向について高度な知識・政策分析能力を持ち、あわせて英語によるコミュニケーション能力を備えた世界に通用する人材」の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】国際地域学部国際地域学科 14条特例の実施	
	国際地域学研究科 [Graduate School of International Studies and Regional Development]	年	人	年次人	人	修士 (国際地域学)	年 月 第 年次	新潟県新潟市東区海老ヶ瀬471番地		
	国際地域学専攻 [Department of International Studies and Regional Development]	2	10	-	20		平成27年4月 第1年次			
	計		10	-	20					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	国際地域学部 国際地域学科[定員増] (20名)(平成27年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	研究科の設置				卒業要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
	国際地域学研究科 国際地域学専攻	25科目	6科目	(一)科目	31科目	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人		
	新設	国際地域学研究科 国際地域学専攻(修士課程)	10 (10)	3 (3)	3 (3)	1 (0)	17 (16)	— (—)		3 (2)
	計		10 (10)	3 (3)	3 (3)	1 (0)	17 (16)	— (—)		3 (2)
既設		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		10 (10)	3 (3)	3 (3)	1 (0)	17 (16)	— (—)	3 (2)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		21 (21)	19 (19)	40 (40)					
	技 術 職 員		— (—)	— (—)	— (—)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	— (—)	1 (1)					
	そ の 他 職 員		— (—)	— (—)	— (—)					
	計		22 (22)	19 (19)	41 (41)					
校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	35,222.55㎡	—	—	35,222.55㎡					
	運 動 場 用 地	8,670.00㎡	—	—	8,670.00㎡					
	小 計	43,892.55㎡	—	—	43,892.55㎡					
	そ の 他	—	—	—	—					
合 計	43,892.55㎡	—	—	43,892.55㎡						
校 舎	専 用		共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	18,512.96 (18,512.96㎡)		—	—	18,512.96 (18,512.96㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	23	34	22	1 (補助職員1人)	4 (補助職員3人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体				
		国際地域学研究科		17室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の図書数(共用分) は100,185冊 視聴覚資料、機械・器具、 標本数は大学全体の数		
	国際地域学研究科	54,634[13,587] (54,634[13,587])	50[28] (50[28])	17 [17]	2,680 (2,680)	1,890 (1,890)	17 (17)			
	計	54,634[13,587] (54,634[13,587])	50[28] (50[28])	17 [17]	2,680 (2,680)	1,890 (1,890)	17 (17)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	1,288.09 ㎡		167席		105,500 冊					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,181.69 ㎡		テニスコート2面							
経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員一人当たり研究費等	826千円	826千円	826千円	—	—	—		—
		共同研究費等	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	—		—
		図書購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—	—		—
	設備購入費	18,000千円	4,000千円	3,410千円	—	—	—	—		
	学生一人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
817.8千円	535.8千円	—	—	—	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要			県費により所要経費を調達する。							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		新潟県立大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際地域学部 国際地域学科	4年	160人	—人	640人	学士(国際地域学)	1.09 1.09	平成21年度	新潟県新潟市東区海老ケ瀬471番地	
	人間生活学部 子ども学科 健康栄養学科	4年 4年 4年	40人 40人 40人	—人 —人 —人	160人 160人 160人	学士(子ども学) 学士(栄養学)	1.03 1.01 1.04	平成21年度 平成21年度 平成21年度		
附属施設の概要		<p>①国際交流センター 主な活動：海外の大学等との交流、企画、支援。海外派遣留学、語学研修支援 所在地：新潟市東区海老ケ瀬471番地(新潟県立大学内)</p> <p>②地域連携センター 主な活動：地域社会と連携し地域貢献を果たして学習の機会を提供する。 所在地：新潟市東区海老ケ瀬471番地(新潟県立大学内)</p> <p>③政策研究センター 主な活動：国内外の研究者の協力と連携を通じて、地域課題解決に必要な諸施策の調査・研究を行うとともに、その成果を学内外に発信する。 所在地：新潟市東区海老ケ瀬471番地(新潟県立大学内)</p> <p>④実証政治学研究センター 主な活動：実証政治学研究に関する研究と研究成果の県民等への還元 所在地：東京都文京区西片1丁目17番8号KSビル9階(新潟県立大学東京サテライト内)</p>								

教育課程等の概要															
(国際地域学研究科 国際地域学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基礎科目	国際地域学研究基礎	1前	2			○			3						オムニバス、(英語または日本語で行う)
	国際政治の理論と方法	1前		2		○			1		1				オムニバス
	地域研究の理論と方法	1前		2		○			2						オムニバス
	グローバル・ガバナンス論	1前		2		○			1						
	データ分析の方法と応用	1前		2		○				1		2			オムニバス、(英語または日本語で行う)
	総合演習	1通	2				○		8	1	3				
	小計(6科目)	-		4	8	0		-	8	1	3	0	0	0	
研究発展科目	国際社会研究	国際制度(機構)論	1前		2		○								兼1
		データ分析特論	1後		2		○			1		2			オムニバス
		政治学研究方法特論	1後		2		○			1					
		国際政治経済学特論	1後		2		○			1					
		国際政治特論	2前		2		○			2			1		オムニバス
		国際経済の政策と政治	2前		2		○			1					
		国際ビジネス特論	2前		2		○								兼1
	多国籍企業論	2前		2		○								兼1	
	地域国際関係研究	東アジア国際関係特論	1前		2		○			1					
		リンケージ政治論	1後		2		○			1					
		地域統合論	1後		2		○			2					オムニバス
		比較政治学	2前		2		○					1			
		国際開発の政策と政治	2前		2		○			1					
	地域(各国)研究	現代日本特論	1後		2		○								兼1
		現代東アジア特論(ロシア)	1後		2		○			1					
		現代東アジア特論(韓国)	1後		2		○			1					
		現代東アジア特論(中国)	2前		2		○			1		1			オムニバス
		現代の外交	2前		2		○								兼1
小計(18科目)	-		0	36	0		-	8	1	3	1	0	兼3		
アカデミック外国語科目	英語プレゼンテーション	1前		1			○		2					共同(一部)	
	英語アカデミック・ライティング	1後		1			○		1	1				共同(一部)	
	日本語プレゼンテーション	1前		1			○			1					
	日本語アカデミック・ライティング	1後		1			○			1					
小計(4科目)	-		0	4	0		-	2	2	0	0	0	0		
研究指導	研究指導	2通	4				○		8	1	3				
	小計(1科目)	-	4	0	0		-	8	1	3	0	0	0		
(合計 29科目)		-	8	48	0		-	10	3	3	1	0	兼3		
学位又は称号		修士(国際地域学)					学位又は学科の分野					法学関係			
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
研究基礎科目8単位以上、国際社会研究科目群・地域国際関係研究科目群・地域(各国)研究科目群それぞれから2単位以上を含め、研究発展科目群から12単位以上、アカデミック外国語科目2単位、研究指導4単位の計26単位以上、総計30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出してその審査と最終試験に合格すること。 なお、アカデミック外国語科目のうち、英語プレゼンテーション及び英語アカデミック・ライティングについては、英語を母語としない学生は必修、日本語プレゼンテーション及び日本語アカデミック・ライティングについては、日本語を母語としない学生で且つ英語力が十分と認められる場合、これら2科目を必修とする。								1学年の学期区分		2 学期					
								1学期の授業期間		15 週					
								1時限の授業時間		90 分					

基礎となる学部の教育課程(国際地域学部国際地域学科)

教育課程の概要																
(国際地域学部国際地域学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目 外国語	Skills Classes ACE(Academic Communicative English)	Oral Communication A	1前	1			○		2	3				兼4	☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県の自然環境、東アジア史、文化人類学) *2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目 外国語16単位以上(必修科目11単位、英語選択科目5単位以上) ただし、ACE科目の一部の履修を免除された者は、日本語科目の履修をもって代えることができる	
		English Grammar	1前		1		○			1						
		English Pronunciation	1後		1		○				1					
		Academic Vocabulary	1後		1		○									
		Reading & Writing	1後		1		○				1			兼1		
		Oral Communication B	1後		1		○				1					
		Listening	1後		1		○				1					
		Practical Writing	1後		1		○			1						
		Fundamental English A	1前		1		○				1					
		Fundamental English B	1後		1		○				1					
		Fundamental Speaking	1後		1		○									
		TOEIC English	2前・2後		1		○					2				兼1 兼1
		Debate	2前		1		○									兼1
		CALL English	2前		1		○					2				
		TOEFL English	2前		1		○					1				
		Effective Learning	2後		1		○					1				
	Public Speaking	2後		1		○								兼1		
	Thesis Writing	4前		1		○					1					
	Integrated Classes	Core English I	1前	2			○		1	3	1					
		Core English II	1後	2			○		1	2	1					
		Academic Reading & Writing	1後		1		○			3						
		Academic Speaking & Listening	1後		1		○			1	1					
		Comprehensive Study Skills I	2前		1		○			1						
		Comprehensive Study Skills II	2後		1		○			1						
		Current English A	2前		1		○		1							
		Academic Writing	2前		1		○			1						
		Intensive Reading	2前		1		○		1		2					
		Business Communication A	2前		1		○				1					
		J-E Translation	2前		1		○								兼1	
		Current English B	2後		1		○			1						
		Creative Writing	2後		1		○				1					
		Extensive Reading	2後		1		○				1					
	Business Communication B	2後		1		○				1						
Advanced Listening	2後		1		○					1						
E-J Translation	2後		1		○			1								
Content Classes	Lecture I	1前	2			○		1						兼1		
	Lecture II	1後	2			○		1						兼1		
	Academic Interactions I	2前		2		○				1						
	Academic Interactions II	2後		2		○				1						
	Project English A	2前		2		○								兼3		
	Critical Thinking	2前		2		○				1						
	Project English B	2後		2		○		1	1					兼1		
Radical Thinking	2後		2		○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県の自然環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目				
基礎科目	東アジアの諸言語	東アジアの諸言語	1後	2			○		5		1							
		基礎中国語Ⅰ	2前		2			○									兼2	
		基礎中国語Ⅱ	2後		2			○									兼2	
		基礎中国語Ⅲ	3前		2			○		1							兼1	
		基礎中国語Ⅳ	3後		2			○		1							兼1	
		基礎韓国語Ⅰ	2前		2			○		1		1						
		基礎韓国語Ⅱ	2後		2			○		1		1						
		基礎韓国語Ⅲ	3前		2			○		1							兼1	
	基礎韓国語Ⅳ	3後		2			○		1							兼1		
	日本語	日本語AⅠ	1前		1			○										兼1
		日本語BⅠ	1前		1			○										兼1
		日本語CⅠ	1前		1			○										兼1
		日本語AⅡ	1後		1			○										兼1
		日本語BⅡ	1後		1			○										兼1
		日本語CⅡ	1後		1			○										兼1
		日本語DⅠ	2前		1			○										兼1
		日本語EⅠ	2前		1			○										兼1
		日本語DⅡ	2後		1			○										兼1
		日本語EⅡ	2後		1			○										兼1
	日本語FⅠ	3前		1			○										兼1	
	日本語FⅡ	3後		1			○										兼1	
	海外研修	海外英語研修A(長期)	2後～3前		4				○		1							
		海外英語研修B(中期)	1後～2前 2前～2後		2				○	1	3							
		海外実地研修	1前～1後		1				○	1	1							
	小計(67科目)		-	11	79				-	8	8	3	0	0			兼8	
	基本技能	文章作成技法	1前		2			○		1								基本技能 9単位以上(必修科目8単位、選択科目1単位以上必修)
		基礎ゼミ	1後		2			○	6	8	1							
情報リテラシー		1前		2			○			1								
ネットワーク・プレゼンテーション概論		2後		2			○			1								
DTP・マルチメディア演習		2後		2			○			1								
体育実技Ⅰ		1前	1													兼4		
体育実技Ⅱ		3前		1												兼2		
体育講義		1後	1				○									兼1		
自然とスポーツ		2後		1				○									兼7	
簿記		2前		2			○										兼1	
会計入門		2後		2			○										兼1	
統計分析入門		2後		2			○			1								
社会調査法		3前		2			○			1								
小計(13科目)		-	8	14				-	7	8	2	0	0			兼9		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			備考								
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	☆基礎科目と関連科目のいずれにも 配置されているもの(新潟県自然 環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置され ている履修科目			
基礎科目 現代教養	国際学	国際学A(国際社会の課題)	1前	2		○			2	4						現代教養科目14単位以上 (「国際学」から選択科目 2単位以上必修)	
		国際学B(世界の諸地域)	1後	2		○			1	1	1					兼1	
	新潟学	新潟県の環日本海交流	1後	2		○			3								(「新潟学」から選択科目 2単位以上必修)
		新潟県の歴史と文化	1前	2		○			3								兼3
		新潟県の子育て子ども家庭福祉	1前	2		○											兼2
		新潟県の保健医療	2後	2		○											兼1
		新潟県の自然環境☆	2前	2		○											兼1
		新潟の農産物と食品加工	1後	2		○											兼1
	歴史と文化	歴史学	1前	2		○						1					兼1
		日本史	1後	2		○											兼1
		東アジア史☆	2前	2		○					1						
		聖書学	1前	2		○											兼1
		地中海文化史	2前	2		○											兼1
		イスラーム文化史	2前	2		○											兼1
		西洋音楽	1前	2		○											兼1
		文化人類学☆	2前	2		○				1							
		美術	1後	2		○				1							
	人間社会と科学	哲学	1前	2		○				1							
		ジェンダー論	1後	2		○				1							
		文学	1前	2		○											兼1
		教育学概論	1前	2		○											兼1
		心理学	1前	2		○											兼2
		社会学	1前	2		○											兼1
		法学	1後	2		○				1							兼1
		日本国憲法	2前	2		○				1							兼1
		日本経済事情	1前	2		○											兼1
		科学技術論	1前	2		○											兼1
		生命のしくみ	1後	2		○											兼2
		食物と栄養の科学	1後	2		○											兼1
		情報システム工学	1前	2		○					1						
		生活構造論	1前	2		○											兼1
	生活支援論	1後	2		○											兼1	
小計(32科目)			-	0	64			-	8	7	2	0	0		兼25		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			備考							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
展開科目	導入科目	国際地域研究入門	1前	2			○		6					兼1	☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県の自然環境、東アジア史、文化人類学) ※2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目	
		国際地域学A(国際関係) ※	1前		2		○		1							
		国際地域学B(多文化共生) ※	1後		2		○		2	1						
		国際地域学C(地域政策) ※	1前		2		○		1							
	共通基幹科目	政治経済系科目	政治学入門	1後		2		○		1						コース要件に従い14単位以上選択 ・国際社会コース:政治経済系から「入門」の付く3科目を含む10単位以上 ・比較文化コース:地域社会系から6単位以上 ・東アジアコース:地域社会系から6単位以上 ・地域環境コース:政治経済系から「入門」の付く3科目を含む6単位以上、地域社会系から4単位以上
			ミクロ経済学入門	1前		2		○			1					
			マクロ経済学入門	1後		2		○				1				
			行政学	2前		2		○				1				
		公共政策と財政	2前		2		○				1					
		金融論	2前		2		○				1					
地域社会系科目	異文化コミュニケーション論	1後		2		○		3					兼1			
	人文地理学	2前		2		○		1								
		地域社会論	2前		2		○	1								
		ポストコロニアル研究入門	2後		2		○	2	3	1						
		都市文化論	2後		2		○			1						
	特殊講義	特殊講義A			2		○							兼1		
		特殊講義B			2		○							兼1		
	フィールドワーク	フィールドワーク A	3前~		1				1							
		フィールドワーク B	3前~		1				1							
	小計(19科目)		-	2	34		-		12	8	2	0	0	兼2		
展開科目	国際社会基幹科目	国際関係史*	2前		2		○				1			・コース科目 いずれかのコースから30単位以上 (国際社会コース) コース科目30単位以上 国際社会基幹科目6単位必修/国際社会演習科目4単位以上 ただし1 Semesterに4単位まで履修可 *コース必修		
		国際政治学*	2後		2		○		1							
		国際経済学*	2後		2		○			1						
		国際関係論	2前		2		○		1							
		国際法	2後		2		○		1							
		欧州統合論	2後		2		○				1					
		比較地球環境政治・政策★	2後		2		○			1						
		国際開発論	2前		2		○			1						
		International Economics	3前		2		○					1				
		International Relations	3前		2		○					1				
		International Development	2前		2		○				1					
		Principles of International Politics A	2前		2		○			1						
		Principles of International Politics A: Workshop	2前		2			○		1	1					
		Principles of International Politics B	2後		2		○					1				
		Principles of International Politics B: Workshop	2後		2			○		1	1					
		Principles of Economics A (Microeconomics)	2前		2		○				1					
		Principles of Economics A (Microeconomics): Workshop	2前		2			○			1	1				
		Principles of Economics B (Macroeconomics)	2後		2		○					1				
	Principles of Economics B (Macroeconomics): Workshop	2後		2			○				2					
	国際社会演習科目	国際関係論演習Ⅰ(基礎)	3前		2			○		1						
		国際関係論演習Ⅱ(展開)	3後		2			○		1						
		国際政治学演習Ⅰ(基礎)	3前		2			○		1						
		国際政治学演習Ⅱ(展開)	3後		2			○		1						
		国際経済学演習Ⅰ(基礎)	3前		2			○				1				
		国際経済学演習Ⅱ(展開)	3後		2			○				1				
		国際法演習Ⅰ(基礎)	3前		2			○		1						
		国際法演習Ⅱ(展開)	3後		2			○		1						
欧州統合論演習Ⅰ(基礎)		3前		2			○				1					
欧州統合論演習Ⅱ(展開)	3後		2			○				1						
Seminar in International Development I	3前		2			○			1							
Seminar in International Development II	3後		2			○			1							
海外経済・金融事情	3前		2			○			1							
内外経済・金融動向分析	3後		2			○			1							
行政演習★	3後		2			○			1							
公共政策・財政論演習★	3後		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県の自然環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目		
国際社会選択科目	比較政治学	2後		2		○									兼1	
	Comparative Politics			2		○									兼1	
	計量政治学	3後		2		○									兼1	
	平和研究	3後		2		○			1							
	Peace Research	3前		2		○			1							
	日本外交論	4前		2		○									兼1	
	自治体外交論	4後		2		○			1							
	国際人権法	3前		2		○			1							
	行政法★	3前		2		○				1						
	比較公共政策・財政論	3前		2		○				1						
	Comparative Public Policy	3後		2		○				1						
	政策過程論★	3後		2			○				1					
	Comparative Environmental Politics/Policies★	3前		2			○				1					
	International Cooperation	2後		2		○					1					
	開発人類学	4前		2		○				1						
	公共経済学★	2後		2		○					1					
	Public Economics★	3前		2		○					1					
	計量経済学★	3後		2		○					1					
	国際経済・金融事情	2後		2		○					1					
	アメリカ地域経済分析★	3前		2		○					1					
	アジア経済開発論★	3後		2		○						1				
	ロシア・東欧経済論	3前		2		○							1			兼1
	現代ユーラシア研究★	3後		2		○								1		兼1
	現代ヨーロッパ研究★	4前		2		○				1						
	Studies in East Asian Regional Integration★	3前		2		○										兼1
	東アジア研究★	3前		2		○					1					
	東南アジア研究	3前		2		○				1						
	現代韓国社会論★	2後		2		○					1					
現代中国社会論★	3前		2		○				1							
社会政策	2後		2		○										兼1	
世界の公衆衛生	3後		2		○										兼1	
小計(66科目)		-	0	132		-			5	8	3	0	0		兼7	
比較文化基幹科目	文化人類学***	2前		2		○			1							(比較文化コース) コース科目30単位以上 比較文化基幹科目10単位 必修/比較文化総論科目8 単位以上 *コース必修
	比較文化論	2後		2		○			1							
	言語学**	2前		2		○			2	2						
	哲学・倫理学*	2前		2		○			1							
	比較宗教学	2後		2		○			1							
	言語文化論**	3前		2		○				2						
	現代文化論	3前		2		○									兼1	
	比較文学*	2後		2		○			1							
比較文化総論科目	文化人類学演習Ⅰ	3前		2			○		1							兼1
	文化人類学演習Ⅱ	3後		2			○		1							
	比較文学演習	3前		2			○		1							
	環境文学・文化演習★	3後		2			○			1						
	ヨーロッパ近現代史	2後		2		○										
	言語の科学A(文法と意味)	3前		2		○				1						
	言語の科学B(音声と音韻)	3前		2		○				1						
	社会言語学	2後		2			○		1							
	Psycholinguistics	3前		2		○										
	Principles of Language Acquisition and Learning	3前		2		○				1						
	Introduction to Bilingualism	3前		2		○					1					
	Principles of Language Teaching	3後		2		○				1						
	Introduction to World Englishes	3後		2		○				1						
	哲学演習	4前		2			○			1						
倫理学演習	3前		2			○			1							
ジェンダーと社会	2後		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	☆基礎科目と展開科目のいずれにも 配置されているもの(新潟県自然環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目				
展開科目	比較文化 比較文化各論科目	日本文化概論★	3後	2		○										兼1		
		英語圏の社会と文化	3後	2		○			1									
		英語圏の文化と思想	3前	2		○				1								
		英語圏文化・思想演習	3後	2			○			1								
		ポストコロニアルの思想と文化	3前	2			○			1								
		アメリカ表象文化論	3前	2			○			1								
		アメリカ社会文化史	2後	2			○					1						
		アメリカ社会文化論	3前	2				○				1						
		Radical History	3前	2				○				1						
		ロシア民俗概論★	2前	2				○		1								
		ロシア表象文化論★	2後	2				○									兼1	
		日露交流史★	3後	2				○									兼1	
		近代中国の社会と文学★	3前	2				○		1								
		現代中国の社会と文学★	3後	2				○		1								
		朝鮮半島の社会と文化★	2前	2				○				1					兼1	
		日本語概論★	3後	2				○		1								
		中国官語文化論★	3前	2				○		1								
		中国官語文化演習★	3後	2					○	1								
		英語音声学	3前	2				○			1							
		英語学概論Ⅰ	2前	2				○			1							
		英語学概論Ⅱ	2後	2				○			1							
		英語統語論研究Ⅰ	3後	2					○		1							
		英語統語論研究Ⅱ	4前	2					○		1							
		英語学演習Ⅰ	3後	2					○		1							
		英語学演習Ⅱ	4前	2					○		1							
		英語教育と英米文学	4前	2				○		1								
		Discourse Analysis	3後	2				○		1								
Psycholinguistics (Application)	3後	2				○									兼1			
ドイツ語原書講読基礎	2前	2					○		1									
ドイツ語原書講読発展	2後	2					○		1									
小計(54科目)		-	0	108		-		12	8	3	0	0	兼8					
展開科目	東アジア共通科目	文化人類学☆☆	2前	2		○			1								(東アジアコース)	
		官語学★	2前	2		○			2	2								コース科目30単位以上
		日本語概論★	3後	2		○			1									東アジア共通科目8単位以上/ロシア、中国、韓国の
		官語文化論★	3前	2		○				2								各基礎科目のいずれかから12単位以上
		日本文化概論★	3後	2		○										兼1		
		東アジア史☆	2前	2		○				1								
		東アジア地誌	2後	2		○			2									
		東アジア研究★	3前	2		○				1								
		アジア経済開発論★	3後	2		○					1							
		Studies in East Asian Regional Integration★	3前	2		○						1					兼1	
		東アジアと日本	4前	2		○											兼2	
		ロシア民俗概論★	2前	2		○				1								
		日露交流史★	3後	2		○											兼1	
		現代ユーラシア研究★	3後	2		○				1								
		現代ヨーロッパ研究★	4前	2		○				1								
		現代中国社会論★	3前	2		○				1								
		近代中国の社会と文学★	3前	2		○				1								
中国官語文化論★	3前	2		○				1										
朝鮮半島の社会と文化★	2前	2		○						1					兼1			
現代韓国社会論★	2後	2		○					1									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考								
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
展開科目 東アジア	ロシア基礎科目	ロシア語ⅠA(基礎)	2前	2				○		1						兼1 兼1 兼1 兼1 ※特別演習科目 履修を要する者のみを対象として開講する科目	
		ロシア語ⅠB(基礎CALL)	2前	2				○		1							
		ロシア語ⅡA(初級)	2後	2					○		1						
		ロシア語ⅡB(初級CALL)	2後	2					○		1						
		ロシア語コミュニケーションⅠ	2前	2					○								
		ロシア語コミュニケーションⅡ	2後	2					○								
		ロシア語コミュニケーションⅢ	3前	2					○								
		ロシア語コミュニケーションⅣ	3後	2					○								
		ロシア言語文化演習A(中級文法)	3前	2					○		1						
		ロシア言語文化演習B(CALL演習)	3前	1					○		1						
		ロシア言語文化演習C(読解・多読)	3後	1					○		1						
		ロシア語学特殊研究	3後	1					○		1						
		※ロシア語特別演習AⅠ	1前	1					○		2						
		※ロシア語特別演習BⅠ	1前	1					○		1						
	※ロシア語特別演習AⅡ	1後	1					○		2							
	※ロシア語特別演習BⅡ	1後	1					○		1							
	ロシア選択科目	露日翻訳演習	3後	1					○		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		日露翻訳演習	3後	1					○								
		ロシア語コミュニケーションⅤ	4前	1					○								
		ロシア語コミュニケーションⅥ	4後	1					○								
		ロシア文学特殊研究	4前	1					○		2						
		時事ロシア語	4前	1					○								
		ロシア史	2前	2				○									
		ロシア表象文化論★	2後	2				○									
		ロシア語の歴史と社会	2後	2				○			1						
		ロシア言語文化論A(伝統文化と社会)	4前	2				○									
		ロシア言語文化論B(文学)	4後	2				○									
		ロシア事情	2前	2				○									
		海外ロシア語研修A(長期)	3前~ 3後	4						○	2						
		海外ロシア語研修B(中期)	2前~ 2後	2						○	2						
	※ロシア語特別演習CⅠ	4前	1					○		1							
	※ロシア語特別演習CⅡ	4後	1					○		1							
	中国基礎科目 中国	中国語ⅠA(語法基礎)	2前	2					○		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		中国語ⅠB(読解基礎)	2前	2					○		1						
		中国語ⅡA(語法初級)	2後	2					○		1						
		中国語ⅡB(読解初級)	2後	2					○		1						
中国語コミュニケーションⅠ		2前	2					○									
中国語コミュニケーションⅡ		2後	2					○									
中国語コミュニケーションⅢ		3前	2					○									
中国語コミュニケーションⅣ		3後	2					○									
中国語表現演習ⅠA(聴解・作文中級)		3前	1					○		1							
中国語表現演習ⅠB(読解・作文中級)		3前	1					○		1							
中国語表現演習ⅠC(読解中級)		3前	1					○									
中国語表現演習ⅡA(聴解上級)		3後	1					○		1							
中国語表現演習ⅡB(読解上級)		3後	1					○		1							
中国語表現演習ⅡC(作文上級)		3後	1					○									
※中国語特別演習AⅠ		1前	1					○		2							
※中国語特別演習BⅠ		1前	1					○		1							
※中国語特別演習AⅡ		1後	1					○		2							
※中国語特別演習BⅡ		1後	1					○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			備考																	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	☆基礎科目と履修科目のいずれにも 配属されているもの(新潟県自然 環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配属され ている履修科目												
東 ア ジ ア	中国 選 択 科 目	中国語表現演習Ⅲ (プレゼンテーション基礎)	4前	1				○															兼1			
		中国語表現演習Ⅳ (プレゼンテーション応用)	4後	1				○																兼1		
		時事中国語	3後	1					○																兼1	
		日中翻訳演習	4前	1					○																兼1	
		中国事情	2前	2				○			1		1													
		現代中国の社会と文学★	3後	2				○			1															
		中国言語文化演習★	3後	2					○		1															
		現代中国社会演習	3後	2					○		1															
		海外中国語研修A(長期)	3前～ 3後	4						○	2														兼1	
		海外中国語研修B(中期)	2前～ 2後	2						○	2														兼1	
		※中国語特別演習CⅠ	4前	1					○																兼1	
	※中国語特別演習CⅡ	4後	1					○																兼1		
	韓国 基 礎 科 目	韓国語ⅠA(総合基礎)	2前	2					○		1													兼1		
		韓国語ⅠB(文法基礎)	2前	2					○															兼1		
		韓国語ⅡA(総合初級)	2後	2					○															兼1		
		韓国語ⅡB(文法初級)	2後	2					○		1													兼1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	2前	2					○															兼1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	2後	2					○															兼1		
		韓国語コミュニケーションⅢ	3前	2					○															兼1		
		韓国語コミュニケーションⅣ	3後	2					○															兼1		
		韓国語リーディングⅠ(中級)	3前	1					○		1														兼1	
		韓国語リーディングⅡ(上級)	3後	1					○		1														兼1	
		韓国語リスニングⅠ(中級)	3前	1					○															兼1		
		韓国語リスニングⅡ(上級)	3後	1					○															兼1		
		韓国語スピーキングⅠ(中級)	3前	1					○				1												兼1	
		韓国語スピーキングⅡ(上級)	3後	1					○				1												兼1	
		韓国語ライティングⅠ(中級)	3前	1					○				1												兼1	
韓国語ライティングⅡ(上級)		3後	1					○				1												兼1		
※韓国語特別演習AⅠ	1前	1					○		1	1													兼1			
※韓国語特別演習BⅠ	1前	1					○																兼1			
※韓国語特別演習AⅡ	1後	1					○		1	1													兼1			
※韓国語特別演習BⅡ	1後	1					○																兼1			
韓国 選 択 科 目	韓国語プレゼンテーションⅠ(導入)	4前	1					○															兼1			
	韓国語プレゼンテーションⅡ(実践)	4後	1					○															兼1			
	韓国語表現法Ⅰ(導入)	4前	1					○															兼1			
	韓国語表現法Ⅱ(実践)	4後	1					○															兼1			
	韓国言語文化論	3前	2				○		1																	
	韓国言語文化演習	3後	2					○	1																	
	韓国社会論演習	3後	2					○				1														
	海外韓国語研修A(長期)	3前～ 3後	4					○				1											兼1			
	海外韓国語研修B(中期)	2前～ 2後	2					○		1													兼1			
	※韓国語特別演習CⅠ	4前	1					○				1														
※韓国語特別演習CⅡ	4後	1					○				1															
小計(113科目)		—	0	183				—	10	4	2	0	0										兼15			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	地域環境基幹科目	都市人間環境学*	2前	2		○			1						☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県の自然環境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目
		地球環境論*	2前	2		○				1					
		新潟県の自然環境☆	3前	2		○									
		地域生活産業論*	3前	2		○			1						
		環境と健康	2後～3前	4		○									
		環境社会学	3前	2		○									
		科学技術社会論*	3後	2		○					1				
	環境・社会関連科目	環境経済学	2後	2		○								兼1	
		比較地球環境政治・政策★	2後	2		○				1					
		Comparative Environmental Politics/Policies★	3前	2			○			1					
		政策過程論★	3後	2		○				1					
		国際資源・環境論	2後	2		○								兼1	
		行政法★	3前	2		○				1					
		地方自治法	3後	2		○				1					
		行政演習★	3後	2		○				1					
		公共経済学★	2後	2		○				1					
		Public Economics★	3前	2		○				1				兼1	
		計量経済学★	3後	2		○				1					
		アメリカ地域経済分析★	3前	2		○				1					
		地域公共政策・財政論	3前	2		○				1					
		公共政策・財政論演習★	3後	2		○				1					
		サステナブルシティ論	3後	2		○				1					
	モビリティ論	3前	2		○								兼1		
	科学コミュニケーション論	2後	2		○				1						
	インターネット利用論	2前	2		○				1						
	環境・生活関連科目	地域生活文化論	2後	2		○								兼1	
		環境文学・文化演習★	3後	2			○							兼1	
		消費生活論	2後	2		○								兼1	
		基礎化学	2前	2		○								兼1	
		環境化学概論	2後	2		○				1					
		生命の化学と情報	3前	2		○				1					
		衣生活論	3前	2		○				1					
		環境工学	3前	2		○				1					
		環境工学実験	4前	1					○	1					
		ヒューマンインタフェース	3前	2		○				1					
	ヒューマンインタフェース演習	3後	2				○		1						
	環境デザイン関連科目	空間デザイン論	2前	2		○				1					
		都市デザイン論	2後	2		○				1					
		地域デザイン論	3前	2		○				1					
		空間デザイン演習A(住居)	2後	2			○			1					
		空間デザイン演習B(公共建築)	3前	2			○			1					
		都市・地域デザイン演習	3後	2			○			1					
		建築・都市環境フィールド演習	4前	2			○			1					
		パッシブシステムデザイン学	3後	2		○				1					
		居住設備デザイン工学	3後	2		○				1					
		プログラミング演習Ⅰ	2前	2			○			1					
		プログラミング演習Ⅱ	2後	2			○			1					
	都市建築情報工学	4前	2		○				1						
小計(48科目)		—	0	97	0	—	—	—	3	9	0	0	0	兼13	
卒業研究	卒業研究	4通	4				○		16	16	3			4単位必修	
	小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	16	16	3	0	0	0	
教職科目	教職の意義	1後		2	○									兼1	
	教育学概論	2前		2	○									兼1	
	教育原理	2後		2	○									兼1	
	教育心理学	2前		2	○									兼1	
	教育制度	2後		2	○									兼1	
	教育課程	3前		2	○									兼1	
	特別活動の研究	2後		1	○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	☆基礎科目と展開科目のいずれにも配置されているもの(新潟県自然环境、東アジア史、文化人類学) ★2つ以上のコースに跨って配置されている展開科目	
教職科目	教育方法・技術	3後			2	○								兼1	※中学校教職免許必修 ※中学校教職免許必修 } いずれか一科目選択必修 中学校教職免許の場合A
	英語科教育法Ⅰ(基礎)	2前			2	○			1						
	英語科教育法Ⅱ(実践)	2後			2	○				1					
	英語科教育法研究	3前			2	○				1					
	英語科教育法発展研究	3後			2	○								兼1	
	生徒・進路指導	3前			2	○								兼1	
	教育相談	3後			2	○								兼1	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○		1	3					
	中等教育実習A	3後			2			○	2	5					
	中等教育実習B	4前			2			○	2	5					
中等教育実習指導	3前~4前			1			○	1	1						
小計(18科目)			0	0	34				2	6	0	0	0	兼9	
(合計431科目)			25	711	34				17	18	6	0	0	兼79	
学位又は称号			学士(国際地域学)					学位又は学科の分野					文学関係・法学関係		
卒業要件及び履修方法										授業期間等					
外国語科目16単位以上(必修科目11単位、英語選択科目5単位以上) 基本技能科目9単位以上(必修8単位) 現代教養科目14単位以上(国際学・新潟学からそれぞれ2単位以上、歴史と文化から4単位以上、人間社会と科学から6単位以上) 展開科目70単位以上(必修科目2単位、選択科目68単位以上) 導入科目 2単位必修、4単位以上選択必修 共通基幹科目(以下のコース別要件に従い14単位以上選択) <input type="checkbox"/> 国際社会: 政治経済系から「入門」の付く3科目を含む10単位以上 <input type="checkbox"/> 比較文化: 東アジア、地域社会系から6単位以上 <input type="checkbox"/> 地域環境: 政治経済系から「入門」の付く3科目を含む6単位以上、地域社会系から4単位以上 コース科目(いずれかのコースから30単位以上) <input type="checkbox"/> 国際社会 国際社会基幹科目6単位必修/国際社会演習科目4単位以上 ただし1セメスターに4単位まで履修可 <input type="checkbox"/> 比較文化 比較文化基幹科目10単位以上必修/比較文化総論科目8単位以上 <input type="checkbox"/> 東アジア 東アジア共通科目8単位以上/露中韓基幹科目のいずれかから12単位以上 <input type="checkbox"/> 地域環境 地域環境基幹科目8単位必修/環境・社会関連科目6単位以上/環境・生活関連科目6単位以上/環境デザイン関連科目6単位以上(演習科目2単位以上)										1学年の学期区分		2 学期			
										1学期の授業期間		15 週			
卒業研究4単位 自由科目(任意、12単位以上) 卒業要件単位128単位以上(教職科目は卒業要件単位に含まない)										1時限の授業時間		90 分			

授 業 科 目 の 概 要			
(国際地域学研究科国際地域学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 基礎 科目	研究 基礎 科目 国際地域学研究基礎	<p>(概要) 国際地域学で取り扱う領域を平和と安全、世界と地域、そして対立と協調などを取り扱う多文化世界などを中心として、世界全体、そして東アジアを例に挙げながら、具体的に解説、分析をする。</p> <p>それぞれの分野、事象に精通した教授陣のオムニバス形式(全15回)の授業となる。このような中で、受講生の関心を喚起し、研究につなげていくことを考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 袴田茂樹/5回) (世界と地域、文化、価値規範)</p> <p>世界の地域認識の一般的基礎として、幾つかの文化圏に分けた世界各地の文化や価値観の違いを理解する。単なる知識として異文化や他の価値観を知るだけではなく、それらが各地域で有するリアリティを理解することを目的にする。より具体的な研究事例としては、担当者が専門とするロシア、中央ユーラシアの歴史、文化、価値観などを掘り下げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 黒田俊郎/5回) (平和と安全、グローバル・イシュー)</p> <p>数あるグローバル・イシューの中から平和と安全に関連するトピックスに限定して、安全保障研究、平和研究の最新業績を踏まえつつ、具体的事例研究も交えながら考察する。(黒田作成済)</p> <p>(7 Ka Po Ng/5回) (対立と協調、東アジアの地域国際関係論)</p> <p>本授業では、安全保障、アイデンティティ、国家間協調などの国際関係に関する問題をアジアにおける対外政策に留意しながら検討する。安全保障については、伝統的な安</p>	オムニバス 方式

研究 基礎 科目	研究 基礎 科目		全保障、また非伝統的な安全保障の問題の両方を取り上げる。アイデンティティに関する授業では、なぜアイデンティティが紛争の大きな原因になるのかについて議論し、国家間協調については紛争が絶えない世界における協調のダイナミクスを考察する。最終週では、こうした問題がアジアにおける地域政治の中でどのように立ち現われているのかについて議論する。	
		国際政治の理論と方法	<p>(概要) 国際政治の理論と研究の方法について、体系的な概説と国際政治学と地域研究のつながり（たとえば、比較政治学、地域経済）を講義し、国際地域学のなかでの政治学とその研究の位置づけを明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 山本吉宣/8回)</p> <p>国際政治学の一般的な導入と、理論と方法を講義する。そして、その応用として、グローバルな政治経済や地域の政治だけではなく、対外政策決定論や交渉論などを国際政治学という視点から考察する。</p> <p>(12 Willy Jou/7回)</p> <p>戦争、国際協力や民主主義といったテーマを取り扱いながら、質的および量的分析について紹介する。特に現代の国際政治に焦点を当て、国際政治学の理論がどのように実際応用されるかについて学生の理解を深めさせる。</p>	オムニバス 方式
		地域研究の理論と方法	<p>(概要) 地域の形成、成り立ち、地域内の関係、動態等についての理論と方法を教授し、研究発展科目（地域研究）の基礎とする</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 袴田茂樹/8回)</p> <p>地域研究は、特定の地域（北東アジア、東アジア、東南アジア等）についての多角的な視点からの研究であり、それは各国研究をも含むものである。学問分野としては、単に政治、経済だけではなく歴史、文学、宗教、文化、言語など幅の広い領域を取り扱う。したがって、マルチ・ディシプリナリーな（多学問領域的な）地域研究の理論をとりあげる。</p>	オムニバス 方式

研究 基 礎 科 目	研 究 基 礎 科 目		<p>(8 浅羽祐樹／7回)</p> <p>地域研究の方法として、一般的な理論と個別現象の分析(イデオグラフィックな方法)、説明的な方法と了解的な方法、数量的な方法と質的な方法という方法論を対比しながら講義を進める。さらにケース・スタディ、現地調査などの方法をも取り上げる。</p>	
		グローバル・ガバナンス論	<p>これは、グローバル・ガバナンスに関する、大学院レベルの入門から発展段階の授業である。グローバル・ガバナンスの概念は、冷戦後の90年代に登場したが、必ずしも合意された定義があるわけではなく、しばしば論争の種となっている。しかし、グローバル・ガバナンスは、多くの分野に応用されており、今後ますますその応用は坂になっていくと思われる。したがって、本授業の目的は、できる限り概念を明確化し、それと同時にその概念や分析枠組みのケースへの応用を体系的に考察し、グローバル・ガバナンスの有用性を示すことである。</p> <p>グローバル・ガバナンスは、①応用される分野、②参加するアクター、③ガバナンスの手段、の3つの次元があり、本授業においては、その順番に沿って進められる。本授業は、</p> <p>6つの部分に分けられる。第1部は、グローバル・ガバナンスの定義とおおまかな鳥瞰図をしめすことである。第II部は、3つの分野を取り上げる。一つは、経済/環境問題、二つには、安全保障、そして3つには、規範とか価値の問題である。第III部は、地域ガバナンス(リージョナル・ガバナンス)の問題が取り上げられる。</p> <p>グローバル・ガバナンスにおいては、非国家行為体が大きな役割を果たす。これを取り扱うのが、第IV部である。そこでは、いわゆるプライベート・レジームから出発し、NGO、地方自治体、企業が順次考察される。第V部においては、多様なアクターが存在し、また多様な分野をカバーするグローバル・ガバナンスにおいて、どのような外交が展開するかが考察される。パラディプロマシーとかマルチ・ステーク・ホルダー・ディプロマシーである。</p> <p>最後に(第VI部)、グローバル・ガバナンスを理解するうえで必要ないくつかの概念が検討される。グローバル・ガバナンスにおける力の問題、国際公共財/集合行為、リーダーシップ/オーケストレーション、アカウントビリティな</p>	

研究 基礎 科目	研究 基礎 科目		どである。	
		データ分析の方法と応用	<p>(概要) 国際地域学の諸領域(国際研究、地域国際関係、地域(各国)研究)にまたがる共通の研究手法、またグローバルな人材として社会で活躍する素養の一つとして本科目を設ける。基本的な趣旨・内容は、変転の激しい現今の社会事象を定量的に理解することにある。統計学や回帰分析の考え方を学ぶことを通じて、定量的研究の方法や解釈の仕方を修得することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 窪田悠一/5回)</p> <p>社会事象に数値をあたえて、統計的な思考様式を学ぶ第一歩として記述統計を中心に教授する。それには、データの収集の方法、データの性質、カテゴリー及び数量的変数の特徴、クロス表の分析・相関関係などが含まれる。</p> <p>(9 藤井誠二/5回)</p> <p>推測統計を中心に統計的な思考様式を深める。具体的には、推定、仮説検定の考え方、変数間の関係、分散分析、ノンパラメトリック検定等を取り上げる</p> <p>(11 李佳/5回)</p> <p>高度な計量分析手法に関する議論の土台を教授する。回帰分析の基礎となる最小二乗法、単純回帰分析、多重回帰分析等を紹介する。</p>	オムニバス方式
		総合演習	<p>(概要) 総合演習では、研究仮説の設定、資料の収集、文献検索の方法や文献読解力の養成など、研究を行う上で必要な基礎的な能力の育成に努める。あわせて、論文作成等にかかる剽窃、盗用等の不正行為の禁止に係る指導なども行う。</p> <p>また、学生の研究テーマや関心に基づき、出来るだけ学生の興味関心や問題意識を生かしつつ研究の方向性についての指導を行う。</p>	
国際制度(機構)論	<p>(概要) 国際、地域を考える上で、国際的な制度(機構)はきわめて重要な要素である。国際制度(機構)は、グローバルなレベル(たとえば、国連)のものもあり、また地</p>			

研究 発 展 科 目	国 際 社 会 研 究		<p>域で大きな役割を果たしているものもある。このような国際制度を主として政治学の観点から取り扱う。</p> <p>国際制度（機構）に関しての一般的なアプローチを国際政治的な観点から概説し、国際制度（機構）の形成、維持、発展のメカニズムまた、その果たす機能、役割さらに限界を明らかにする。また、国際法、さらには近年盛んになってきているグローバル行政法の観点を取り入れた考察を行う。また、アジア太平洋、東アジアにおける地域制度（機構）だけではなく、他の地域の国際制度（機構）を比較の対象として検討する。</p>	
		データ分析特論	<p>(概要)</p> <p>本講義は「データ分析の方法と応用」の発展科目である。政治学や経済学で一般的に用いられている計量分析のこれまでの発展と理論を解説し、実例（先行研究）を用いて実習等を行うことで、データ分析能力を修得することを目指す。具体的な手法として、時系列・クロスセクション・パネルデータ分析、最尤法に基づく回帰分析、マルチレベル分析等を教授する。講義の進め方として、まず教員がモデルの解説を行い、つぎに受講生が実際のデータに対する応用力を養うためにリプリケーション（再現）を行う。</p> <p>(オムニバス／全15回)</p> <p>(11 李佳／5回)</p> <p>パネルデータ分析（固定効果、ランダム効果）、操作変数法と二段階最小二乗法、同時方程式モデルなどの手法を取り上げる。</p> <p>(10 窪田悠一／5回)</p> <p>最尤法の原理を紹介したうえ、プロビット分析、ロジット分析、多項選択モデル、順序プロビット／ロジット分析、マルチレベル分析などの手法を取り上げる。</p> <p>(9 藤井誠二／5回)</p> <p>ダミー変数を用いた分析、時系列分析、主成分分析、因子分析、共分散構造分析などの手法を取り上げる。</p>	オムニバス 方式

政治学研究方法特論

(概要) 社会科学の分野における研究にとって、正しい方法論を用いることは必要不可欠なことである。この授業では、質的分析の方法を大学院の学生に紹介することを目的としている。

本授業は特に以下4つの達成目標を持っている。第1に、分析方法の哲学的な背景について考察することである。すべての方法論には、存在論と意味論に関わる哲学的な側面を持っている。本授業ではこうした哲学的な側面を考察する。第2に、主要な質的方法に関して理解を深めることである。研究者達が、実際どのようにさまざまな質的方法を活用しているかを概観する。第3に、質的分析を使用する政治学研究について評価することである。そのため、質的分析を駆使する農民蜂起、選挙や民主化など、具体的なテーマを取り上げる。第4に、実際に質的方法を応用して分析の練習を行うことである。インタビューや参与観察を各自行うことによって、これらの方法を身につける。本授業では、以下7つの質的方法を学ぶ。

- (1) ケース・スタディ/small nの方法;
- (2) 比較歴史分析;
- (3) インタビュー;
- (4) フォーカス・グループ;
- (5) 参与観察;
- (6) 解釈論;
- および (7) 文化研究。

国際政治経済学特論

(概要) 国際政治経済学の基本的な分野のうちで、特に重要と思われる国際貿易と国際投資の領域における理論・実証分析に関する掘り下げた講義を行い、受講生の専門性を高める内容にする。具体的には、(1)国際貿易と投資に関する基礎理論、(2)不完全競争下での貿易を対象とする新貿易理論、(3)企業や生産要素の異質性 (heterogeneity) を想定した最新の貿易・投資理論を段階的・体系的に紹介する。また、理論研究に関する理解と同時に、現実の国際政治経済のデータを用いて分析するための実証研究を紹介する。受講者が国際経済に関して政治経済学の視点から理論と実証の両面から理解できることを目指す。

国際政治特論

(概要) 国際政治をより深く分析するための授業であり、とくに国際政治関連で修士論文を執筆しようとする学生に資するような内容とする。

国際政治の主要分野である平和と安全保障、国際レジーム論、国際政治経済学、政策決定論、多国間交渉論などか

オムニバス
方式

研究 発 展 科 目	国 際 社 会 研 究		<p>ら一つの分野（あるいは、複数の領域の組み合わせ）をとりあげ、最新の国際政治理論にもとづいた分析を授業する。そこでは、学生に主要文献を読ませ、自由な討論を踏まえた上で、各自の研究を進めさせる（ターム・ペーパー）。どの分野（あるいは、複数の分野の組み合わせ）を取り上げるかは、各年で、あるいは、オムニバス方式で、教員の専門分野を考えつつ、なかんずく学生の関心（修士論文のテーマ等）を見据えて、選択することになる。</p> <p>（オムニバス／全15回）</p> <p>（7 Ka Po Ng/5回）</p> <p>平和と安全保障を主たる考察対象とし、戦争の原因と結果、戦争のルールを論じたうえで、抑止、強制外交、経済制裁等、戦争と平和の狭間にある諸問題を検討し、最後に平和の構築と維持について討議する。</p> <p>（13 上村威/5回）</p> <p>コンストラクティビズムの国際政治学とその応用を検討する。アジア太平洋地域における戦後の国際関係を主たる題材として、安全保障とアイデンティティをキー・ワードに、中国、日本および米国の現代外交について理論的に考察する。</p> <p>（5 黒田俊郎/5回）</p> <p>国際社会における秩序の形成と変容を主にリベラリズムの諸理論に依拠して検討する。具体的には、古典的リベラリズムの内在的検討とその現代国際政治への含意を確認し、最後にリアリズムとの若干の接統を試みる。</p>	
		国際経済の政策と政治	<p>（概要）国際政治経済学特論や国際制度などを履修した学生を念頭に、国際経済における重要な政策を政治学と経済学の観点から取り上げ、政策の内容、政策の決定プロセス、政策のもたらす効果を明らかにする。特にこれらを理解する上で不可欠な基礎理論と実証分析の手法を習得することを目指す。トピックスとして、輸入政策、輸出規制、戦略的貿易政策、WTOルール、地域経済連携協定、投資ルール、知的財産権保護政策、貿易自由化に関する国民の政治行動などを取り上げる。理論分析とともにデータを用いて政策効果を数量的に分析することにより、国際経済の政</p>	

研究 発展 科目	国際 社会 研究		策をより深く理解できることを目指す。この科目の履修者は国際政治経済学特論を履修しておくことが望まれる。
		国際ビジネス特論	<p>(概要) 企業戦略、インターネットとIT革命、生産システム、物流システム、企業ファイナンス、R&D マネジメント、マーケティング、ビッグ・データとe-マーケティング等、国際ビジネスにおける主要分野の最新動向を理解し、世界の経営動向を眺み解く鍵を習得すると同時に、1) 70-30原則、2) 収束と拡散、3) ミクロとマクロの結節点、と言った、時代の趨勢が要求する方法論の特質を把握する。また、その成果を日々のビジネスに活かす実践力を磨き、不確実性の時代、グローバル・メガ・コンペティションを勝ち抜いて行くために必要とされるリーダーシップに関して明瞭な志を立て、そうした能力を涵養するための『各自に固有の方法論』の確立を目指す。</p> <p>具体的な講義内容としては、先ず、21世紀における企業戦略の要諦を俯瞰した後に、インターネット革命の本質を論じる。特に、通信とコンピューター技術の融合がマルチメディア・ネットワークへと至る歴史的発展過程を概観し、インターネット以前と以後とで何が本質的に変わったのかを検討する。さらに、国際競争においてインターネットがもたらした変化を、日米比較を中心に、最新の具体例を通して検討する。また、国際ビジネスにおける日本企業の課題を捉える観点から、生産システム、物流システム、企業ファイナンス、R&D マネジメント、マーケティング、ビッグ・データとe-マーケティング等、国際ビジネスにおける主要分野の最新動向を論じる。これらの議論を通して、時代の趨勢が要求する方法論の特質を把握し、自ら国際的な場でリーダーシップを発揮するための能力を涵養する。また、グループごとに、国際ビジネスに関するテーマを選択し、データを収集し、研究・考察を行った上で、発表を行う。</p>
		多国籍企業論	<p>(概要) 第2次世界大戦以後、成長型経済から市場成熟型経済、さらにグローバル超高度資本主義の時代へと世界を牽引して来たアメリカ、EU、日本の3極が、それぞれに固有の行き詰まりを見せ始めて居り、21世紀における社会システムの在り様や企業経営の本質に関して、もはや明瞭な手本は存在しない。手本無き時代には、世界の基本的動向を捉え、その枠組の中で自らの経験・判断を蓄積し体系化して行くことが、極めて重要になる。本講義では、グロ</p>

研究 発 展 科 目	国 際 社 会 研 究	<p>ーバル市場を、EU・北米・日本を中心とする成熟経済型3極市場、BRICS、NEXT11に代表される成長経済型市場、そして世界人口の70%を占めるBOP市場から構成される重層的な構造として捉え、国際経営の観点から、各層における基本的な経営課題を論じる。さらに、グループ研究を通して、自動車産業、半導体産業、通信産業等における多国籍企業の最新動向を分析し、主要な経営決断の背後に隠された理由に付いて考察する。</p> <p>前半の10回の講義では、現代を『手本無き時代』として捉え、グローバル・メガ・コンペティションの新潮流を理解する。特に、EU型社会経済システム、アメリカ型社会経済システム、伝統的・日本型社会経済システムの特徴と限界を論じ、市場経済成熟の向こう側に何が見えるのかに付いて考察する。</p> <p>後半の5回は、グループ研究活動の進捗報告・検討と最終報告に充てられる。グループごとに、特定の産業分野と多国籍企業を選択し、データを収集した上で、その企業の戦略的決定に関して研究・考察を行った上で、発表を行う。</p>
	地 域 国 際 関 係 研 究	<p>東アジア国際関係特論</p> <p>(概要) この授業では、東アジア諸国が直面する外交問題について講義する。先ず、国際関係におけるリアリズム、リベラリズムおよびコンストラクティズムという三つの考え方から導入する。</p> <p>次に、東アジアにおける外交史を振り返る。現代アジア諸国の外交関係にとって、歴史問題を抜きに語ることはできない。歴史認識に関して、各国の間でどのような違いが存在しているかについて知ることは、現在の外交問題を理解することにも関連している。</p> <p>この授業は主に、アジア諸国における具体的な外交問題に焦点を当てる。先ず、軍事、領土紛争や核兵器をはじめとする安全保障の問題を取り上げる。次に、貿易や投資に関連する経済問題である。そして、APEC、アジア開発銀行やASEANなどの地域組織に焦点を当てる。最後にアジアにおける文化交流やソフト・パワーについて考察する。また、この授業には主に二つの達成目標を掲げている。第1に、アジア諸国の外交について複眼的に考察する力を養うこと。第2に、当該地域における紛争を緩和できるような、現実的な外交政策を学生自ら考案すること、である。</p>

研究 発 展 科 目	地 域 国 際 関 係 研 究	リンケージ政治論	<p>(概要)「リンケージ政治論」と題されるこの授業は、決して政治学だけに関するものではない。政治学は国内政治および国際問題の「リンケージ」として国内要因と国際要因のインターアクションをさらに深く研究していくときの焦点である。この授業ではリンケージというコンセプトに焦点を当て、それが実際の研究の中でどのように応用されているかについて考察する。履修生は先ず、リンケージに関連する様々なコンセプトや理論についての理解を深める。特に国際関係理論 (IR) の分野において、国内要因と国際要因のインターアクションがどのようにとらえられているかについて、先行研究を概観する。続いて、リンケージのコンセプトを具体的なイシューの考察に応用する。そして、リンケージに関する講義を通して、国内政治がどのように国外の要因から影響を受け、また逆に国内の出来事が対外的に、どのようなインパクトを持っているかについて学習する。</p> <p>さらにこの授業はインターラクティブなレクチャー方式で行なわれる。参加学生はディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められる。</p>	
		地域統合論	<p>(概要) 国際地域学の一つの柱である地域に関して、地域統合論という観点から掘り下げようとするものである。地域の現状、異なる地域の比較など、広い観点から、地域を位置づけることを目的とする。</p> <p>地域統合論は、より具体的には、経済、安全保障、社会/文化などの面での地域の統合の問題を理論的、実証的に取り上げるものである。</p> <p>(オムニバス/全 15 回)</p> <p>(1 山本吉宣/6 回)</p> <p>地域統合の実態に関して、地域統合の理論を背景にしつつ、時間的な経緯を、ヨーロッパ、アジア太平洋、西半球、アフリカなどに関して概略的に明らかにしていく。そして、東アジアの地域統合に焦点を当てた考察を行う。</p> <p>(6 渡邊松男/9 回)</p> <p>地域統合の中でもとくに経済的側面に焦点をあてる。関税同盟理論に立脚する静学的厚生と、動態効果に注目する 1980 年代後半以降のグローバル化が加速するなかでの新地域主義について、理論的枠組みを論じる。なお先進国と途</p>	オムニバス 方式

研究 発 展 科 目	地 域 国 際 関 係 研 究		上国（たとえば EU-ACP 諸国の経済連携協定など）および途上国間の地域統合スキームを考察の対象とする。	
		比較政治学	（概要）国際地域や各国の分析を行うことを念頭に置き、政治体制や政治事象に焦点を合わせて、各国、地域の政治を比較する基本的な理論、概念枠組みを教授する。さらに東アジアに関して、比較政治学の方法と応用を教授し、受講生に分析の基礎を与える。内容は、比較政治学の内容と範囲、比較の論理、擬似実験的な思考、実証と実証の方法等から成り立つ。また、事例として、日韓比較、民主主義の比較、異なる政治体制間の比較などのケースを取り上げる。	
		国際開発の政策と政治	（概要）国際地域学において、途上国地域のみならず国内における経済開発・振興は、重要な課題である。東アジアをみてもいくつかの国は中所得国になりつつあるが、その多くは途上国である。また中国も内陸部の経済開発は経済資源の活用だけでなく治安面からも優先的かつ喫緊の課題である。これら諸国が直面する課題や、それに対応する政策の形成過程を理解することは不可欠である。また近年の国際開発には、政治経済社会分野の発展に加え、紛争予防・平和構築や気候変動など地球規模の課題が含まれる。これらは国際社会が一体となって対処すべき大きな問題であり、我が国が主導的な役割を担う外交政策課題である。このようなサブジェクトの理解は、グローバルレベルの人材として一つの要件であるといえよう。本講は、国際開発レジームとその形成、途上国政府の産業振興のポリシースペース、紛争と平和構築、援助の効果に対する議論など国際開発における近年の政策課題とそれらの形成過程あるいは背景となる国際政治経済の含意を考察する。	

研究 発展 科目	地域 (各 国) 研 究	現代日本特論	<p>(概要) これは、日本政治および経済に関する、大学院レベルの入門から発展段階の授業である。本科目は、主として外国人留学生を念頭においている。</p> <p>日本の政治、経済に関して、一般的な制度、過程、政策を紹介、分析する。まず第1部では歴史的な背景、明治期の政治および経済制度、戦時期の変化、占領期の新政治制度と経済制度を教授する。</p> <p>第二部では、日本の経済政策決定における政治アクターを行政府、政治家、民間部門というように個別にみていく。最後にこれらの日本経済政策における政治アクターがどのように相互作用を及ぼしていくかをみる。</p>	
		現代東アジア特論 (ロシア)	<p>(概要) ロシアに関して、政治、経済、歴史、文化などからの総合的分析を行う科目である。</p> <p>ロシアの政治、経済に関して、一般的な制度、過程、政策を紹介、分析する。これは、ロシアの国家レベルでのことを中心としつつも、地方のレベル、また国民のレベル、あるいは社会にまでおいて検討するという方式をとる。そして、ロシアの文化や歴史が東アジアにおいて、どのような位置を占め、またロシアの政治、経済、さらには外交とどのような関係を持つかを検討する。</p>	
		現代東アジア特論 (韓国)	<p>(概要) 韓国や北朝鮮の政治と外交について政治学と国際関係論に位置づけて統合的分析を行う。</p> <p>権威主義体制からの民主化、民主体制の定着、経済発展と経済危機、中央地方間関係、社会政策、福祉国家、政治制度、選挙政治・民主主義論、外交政策、日韓関係・米韓関係、政軍関係、核ミサイル問題など主要なテーマについて、伝統的な歴史学的アプローチ、近年政治学で主流になっている合理的選択論、政治学と社会学のインターディシプリナリー・アプローチ、少数事例比較としての日韓比較など多様な方法論で分析する。また、常に、他の地域・国との比較や、異なる時期間の比較を念頭に置く。</p>	
		現代東アジア特論 (中国)	<p>(概要) 本授業は、現代中国研究の上級コースである。中国の政治、経済、軍事、国際関係、制度構築およびその過程といった広範なトピックを網羅するが、政策課題に基づいて整理する。授業では、概念的考察、歴史的・記述的検証、統計データを踏まえた実証的分析を取り扱</p>	オムニバス 方式

研究 発展 科目	地域) 各 国 (研 究		<p>う。</p> <p>講義はオムニバス形式で行われ、二部構成から成る。第一部 (Ng 担当) では、政治学の観点から中国の内政、外交およびその関連性を中心とした講義を行う。第二部 (李担当) では、経済学の観点から中国の経済、とりわけ改革開放以降における高度成長のメカニズムを理論と実証に即して講義する。経済成長の持続性に焦点を当てる。</p> <p>(オムニバス/全 15 回)</p> <p>(7 Ka Po Ng/8 回)</p> <p>中国の政治、戦略、文化を中心とした講義を行う。また、中国の内政と外交の関連についても取り扱う。</p> <p>(11 李佳/8 回)</p> <p>中国の経済に関して、その経済発展、歴史、現状を理論と実証に即して講義する。また、中国経済と国際経済関係に関しても考察する。</p>	
		現代の外交	<p>(概要) これは、外交政策の歴史や理論、分析手法に関する、大学院レベルの入門から発展段階の授業である。</p> <p>外交を分析するにあたって、第 1 部で基礎的な歴史や理論を開設する。そこではリアリズムとリベラリズム、コンストラクティビズムなどの理論が紹介される。第 2 部においては外交政策の分析手法を享受する。そこでは政策決定アクターやその決定過程、政策決定モデル、政策の実行と行動パターン、メディアと世論の役割などを扱う。第 3 部においては、外交政策として、安全保障政策、経済外交政策、グローバルイシューが取り上げられる。第 4 部においては、学生が具体的な事例研究について、授業で習った分析手法を用いて、研究発表する。</p>	
		英語プレゼンテーション	<p>(概要) 英語による講義・演習の履修に不可欠な英語運用能力を養うための科目であり、必修として設置する。</p> <p>英語でプレゼンテーションを行うときの、発表資料の作成と発表について実践的に教授する。学生は個人発表とグループ発表、ポスター発表とパワーポイントを用いての発表を体験しつつ学ぶ。学術的な発表に必要なアカデミックスキルや言語表現に関わるスキルを中心に、明確な構成、論旨の提示、学術的な引用法、説得的なデータの提示、視</p>	共同 (一部)

ア カ デ ミ ク 外 国 語 科 目	ア カ デ ミ ク 外 国 語 科 目		<p>覚情報の利用、文献の批判的提示と関連付け、結論と課題の提示、質疑応答への対応、発表における統一性などについて学ぶ。</p> <p>(ティーム・ティーチング/全15回)</p> <p>(14 福嶋秩子/3回)</p> <p>第1週 導入講義と演習</p> <p>第14・15週 最終プレゼンテーション</p> <p>(15 John Lindsey Adamson//15回)</p> <p>第1～15週</p>	
		英語アカデミック・ライティング	<p>(概要) 英語による講義・演習の履修に不可欠な英語運用能力を養うための科目であり、必修として設置する。</p> <p>英語で学術論文を作成するときに必要な書式や文体、レトリックなどについて実践的に教授する。学生は、文献の読み方、データの集め方、APAスタイルの引用のし方を学ぶ。学術的な論文を書くのに必要なアカデミックスキルや言語表現に関わるスキルを中心に、明確な構成、論旨の提示、説得的なデータの提示、視覚情報の利用、文献の批判的提示と関連付け、結論と課題の提示などを意識して書くことを学ぶ。</p> <p>(ティーム・ティーチング/全15回)</p> <p>(14 福嶋秩子/2回)</p> <p>第1・2週 導入講義と演習</p> <p>(16 Melodie Lorie Cook/15回)</p> <p>第1～15週</p>	共同 (一部)
		日本語プレゼンテーション	<p>(概要) 留学生が自分の出身地や研究内容などを説明するのに必要な語彙を学び、アカデミックな場に適した表現やスタイルで話すことを繰り返し練習する。具体的には、「自己紹介」、「将来の計画」のスピーチと、自分の出身地の「地理と気候」、「産業と貿易」、「日本との政治的、経済的、文化的関係」、ならびに、「専門 (研究計画)」のプレゼンテーションを行う。なお、プレゼンテーションでは、視覚資料 (スライド) の作成も行う。</p>	

		日本語アカデミック・ライティング	<p>(概要) 日本で起こっている社会問題に関して、日本語学習者向けに書き改めた記事を読み、要約をする。次に、そのテーマについてクラスで討論をし、討論で深めた意見を意見文にまとめる。書いた意見文は、クラスメートと教員からのフィードバックをもとに書き直し、よりわかりやすく、説得力のある意見文となるようにする。以上のプロセスを繰り返す、日本社会に関する理解を深めながら、アカデミックな日本語ライティング能力の伸長を図る。</p>	
研究指導	研究指導	研究指導	<p>(概要) 専門領域の修士論文作成指導を行い、学生の修士論文について、論文全体の構成、文献検索、先行研究の調査、文献読解力の習得、研究方法、分析方法など、論文完成までの必要な全ての指導を行う。</p> <p>(1 山本 吉宣)</p> <p>学生の関心によって、具体的には異なるテーマを取り上げるが、安全保障、国際制度などの問題を取り上げ、国際体系（システム）論、政策決定論というアプローチから国際政治の課題についての研究指導を行う。また、指導のあり方としては、分析枠組みの設定、資料の収集、分析、そして学術的論文の執筆法などを含んで体系的に指導する。</p> <p>(2 袴田 茂樹)</p> <p>ロシア、中央ユーラシアの政治、経済、社会（文化）問題を中心に、学生の関心と社会のニーズなどを考慮しながら、具体的なテーマを定め、指導を行う。学生の関心次第では、目先の社会的ニーズから離れた学術的テーマも指導する。指導に当たっては、近年のアカデミズムの弊害である「理論のための理論」に走るのを戒め、あくまでも足に地につけた現実認識を基礎にして、その上にしっかりとした理論構築や実証的分析を行うよう指導する。研究にあたっては、リアルな認識を持つために、研究対象地域の現地体験も重視したい。</p> <p>(3 若杉 隆平)</p> <p>国際貿易、直接投資に関する現象・政策課題を対象に、分析にふさわしいテーマを学生に選択してもらい、それに即して、経済学のツールを用いて理論・実証の両面からの研究指導を行う。先行研究のサーベイ、分析の対象とする課題の設定、分析フレームワークの構成、理論モデルの構</p>	

研究指導	研究指導		<p>策、実証研究に求められるデータの収集と計量分析のストラテジーを指導し、学術論文の執筆方法を指導する。</p> <p>(4 Gregory J Kasza)</p> <p>大学院の学生に対する指導の中で、学生の研究計画に対して評価を行い、改善させることが重要な教育の一環である。私は特に以下の点に重視し、研究計画の指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が適切なテーマを選択できているか <p>学生が選択したテーマは重要な意義を持っているか。テーマは広すぎたり、あるいは狭すぎたりはしないか。また、テーマに関連する先行研究で、どのような議論が交わされ、何が明らかにされていないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論的な目的がはっきりしているか <p>提起された問題を明らかにするために、適切な事例研究(国家や出来事など)を選択しているか。また時間、お金、および研究者のスキルなど、事例研究の遂行に必要とされる条件が満たされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を明らかにするために、分析のレベルなど、正しいアプローチをとっているか <p>分析のレベルとして、階級、エリート集団や一般大衆、歴史の中における変化の過程、不特定多数の個人、公的組織、政権の種類、ジェンダー、グループ、マクロ社会の性質などが含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析方法が適切であるか? <p>分析方法として、統計、インタビュー、アーカイブ・リサーチ、ケース・スタディ、参与観察などが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用できるデータが十分であるか <p>利用できるデータの質、量、そしてプロジェクトとの関連性が十分であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念的な枠組みが適切であるか <p>使用されている主な概念がはっきりと定義され、且つ実証的な根拠を持っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関連する先行研究を細かく検証しているか。 <p>(5 黒田 俊郎)</p> <p>国際政治学及び平和研究分野を中心とした研究課題の指導を行う。具体的には、国際政治学分野ではリアリズムとリベラリズムの思想史的検討や国際秩序と国際倫理をめぐる諸問題を、平和研究分野では、現代紛争の変容と構造的</p>
------	------	--	---

研究 指導	研究 指導		<p>暴力をめぐる諸問題や平和研究と批判的安全保障研究の接続をテーマとする学生を想定しているが、むしろこれは、他の研究テーマの排除を意図するものではない。また具体的な指導にあたっては、研究課題の妥当性の吟味、分析枠組みの設定、先行研究の精読及び批判的検討、学術論文執筆法などに力点を置いて指導する。</p> <p>(6 渡邊 松男)</p> <p>国際開発、開発援助、紛争・平和構築、経済社会発展と産業政策など途上国を取り巻く諸課題を対象とする。およそ開発は多元的な変革プロセスである。この認識に立ち、研究を組み立てる初期段階では、当該研究トピックについてむしろ間口を広く取り、複合的なリサーチクエスチョンや分析アプローチを検討するよう指導する。そのうえで研究計画を精緻化していく。</p> <p>(7 Ka Po Ng)</p> <p>修士学生の研究指導ではまず、学生がそれぞれの研究テーマを見つけることができるよう、アドバイスを提供し、特に国際関係論、安全保障、および中国の安全保障政策を中心とする研究テーマで、学生が実行可能な研究を行うことができるよう、専門的な指導を行う。</p> <p>具体的には、政治学（特に国際関係論）における理論的なアプローチや方法論に関する助言を提供する。学生はこうした指導を受けながら、積極的に先行研究に触れ、自ら進んで研究を進めることが求められる。その過程で、学生が学んだ理論や方法論をそれぞれの研究に応用し、独自の分析ができるよう、指導を行う。</p> <p>(8 浅羽 祐樹)</p> <p>韓国や北朝鮮の政治と外交をテーマにする学生に対して、政治学や国際関係論といったディシプリンの中に事例として位置づけると同時に、地域研究のモノグラフとしても意味のある修士論文になるように研究指導を行う。そのためには、多様な方法論の中でなぜその方法論を用いるのか、なぜ韓国や北朝鮮という事例でなければならないのか、先行研究に対する貢献はどこにあるのか等において、先行研究をリバース・エンジニアリングしながら自らの研究戦略を意識化・差別化する方法を重視する。</p>	
----------	----------	--	---	--

研究 指導	研究 指導		<p>(9 藤井 誠二)</p> <p>投票率などを用いた公共選択の理論に関する研究や世論調査データを用いた生活の質に関する研究などの分野から、学生の関心に基づいて研究指導を行う。その際、回帰分析を用いた実証的な研究を行うことを学生に推奨する。指導のあり方としては、作業仮説と基本仮説の関係から文献収集やデータ収集、データ分析、仮説検定などを含み、実証的な論文を作成できるようになるための体系的な指導をする。</p> <p>(10 窪田 悠一)</p> <p>比較政治学及び国際関係論を中心とした政治学分野における研究課題の指導を行う。具体的には、政治体制や国家-社会関係、民主主義などの問題だけでなく、内戦、民族紛争、革命といった非正規的なプロセスの政治現象に関する課題の指導を行う。実際の指導は、事例選択やリサーチクエスションの設定を含む研究デザイン、統計データの分析方法、学術論文の構成などに力点を置く。</p> <p>(11 李 佳)</p> <p>途上国の経済発展、とりわけ長期的な経済変動に関わる諸課題から、修士論文にふさわしい具体的なテーマを学生に選択してもらい、研究指導を行う。理論と実証を統合して、さらに政策的インプリケーションが得られる分析テーマが望ましい。なお、対象地域は中国と限定しない。設定されたテーマに即して、先行研究のレビューから修士論文完成までの一連の作業を体系的に指導する。特に、理論的分析枠組みの構築、リサーチ・クエスションの具体化、統計データの収集と処理、計量分析の実行、学術論文の執筆といったステップに焦点を当てる。</p> <p>(12 Willy Jou)</p> <p>このコースでは、学生に対して研究の方法論と分析のスコープという二つの側面からアドバイスを提供し、一人一人が関心のある研究テーマを発展できるよう、学生全員と定期的に面談し、疑問に答えながら関連する研究や研究の方向性について示唆を行う。テーマとして政治文化に関する比較研究、市民の思考及び行動パターン、政党と選挙の制</p>	
----------	----------	--	--	--

			度や民主化などが想定される。	
--	--	--	----------------	--